第１章　栄区の現状と課題

１　栄区の成り立ち

(1)　位置と地形

栄区は、横浜市の南部に位置し、東は金沢区、磯子区、北は港南区、西は戸塚区、南は鎌倉市に接しています。

市の中心部までは約 12km の距離で､区の玄関口である本郷台駅､大船駅から横浜駅までは、東海道線または根岸線で所要時間 20～30 分、東京駅までは約 40km、50～60 分と、首都圏の通勤圏にあります。

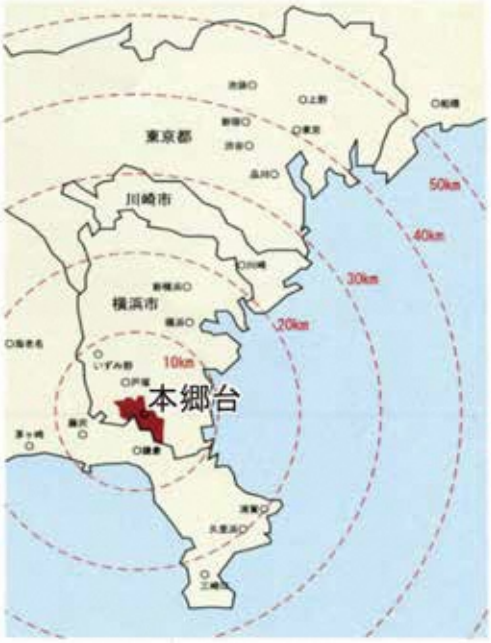
また、鎌倉、江の島、逗子等に近接しており、横須賀線や湘南モノレール、横浜横須賀道路などを利用してリゾート地帯に出かけることができます。

しかしながら、住宅地の大部分では最寄り駅までバスを利用する必要があり、道路渋滞によって駅まで著しく時間がかかるなど、実際の距離以上に遠く感じられることもあります。

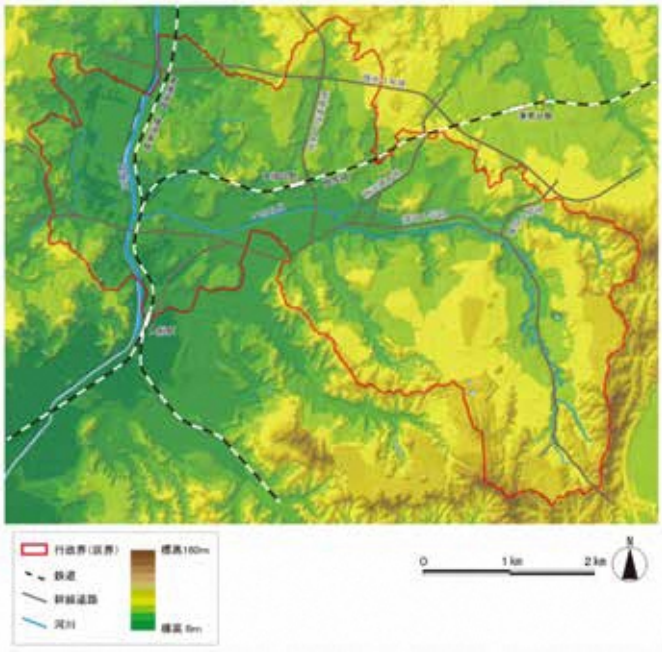
地形については、区の中央を東西に流れるいたち川と西部を北から南へ流れる柏尾川沿いに低地が形成され、丘陵がその周囲を取り囲む、起伏に富んだ地形となっています。

東西の長さ約７km、南北の長さ約６km で、面積は約 18.6 ㎢（18 区中 15 番目）となっています。

●本郷台駅を中心とした距離図



●栄区の地勢



出典：基盤地図情報数値標高モデル５ｍメッシュデータ（国土地理院）

(2)　栄区の歴史

栄区の歴史は、縄文時代の土器が発見された松ケ丘遺跡（笠間五丁目）や弥生時代の住居跡が発見された笠間中央公園に見られるように、遠い昔にまで遡ることができます。特に鎌倉時代には鎌倉幕府との結びつきが強く、いたち川流域の豊かな田園が食糧生産を担うとともに、東北地方に対する軍事政策の上で重要な役割を果たしていたと考えられています。

明治・大正時代までは、平地部のほとんどが田畑で、山裾や谷戸に集落がある程度でしたが、横須賀に軍港があった関係で明治 22（1889）年に横須賀線が開通し、分岐点として大船駅が開設されました。

昭和期に入り、昭和 13（1938）年に小菅ケ谷に第一海軍燃料廠（しょう）が設置されると、付近には軍関連施設が次々と設けられ、昭和 18（1943）年には軍用道路として六浦から笠間交差点まで原宿六浦線（現在の環状４号線）が開通しました。

また、この頃から柏尾川沿いに大規模工場の進出が相次ぎ、川沿いの水田地帯は工業地帯へと変わっていきました。

戦後、第一海軍燃料廠等の施設は、大部分がアメリカ軍に接収され大船ＰＸ（倉庫地区）となりました。接収地は本郷地区の中心であったため、地域の発展の大きな障害となっていましたが、昭和 40（1965）年から接収解除・払い下げが実現し、公共施設、学校、中高層住宅などの集積地に生まれかわるとともに、昭和 48（1973）年の根岸線全線開通に伴って本郷台駅が開設され、地域の拠点となりました。

また、昭和 30 年代後半から 50 年代前半にかけては、丘陵部において大規模な宅地開発が行われ、谷戸が連なる里山は戸建てを中心とした住宅街に大きく変貌しました。

こうした大規模開発により人口が急増したことから、地域により身近な行政を推進するため、昭和 61（1986）年 11 月３日、戸塚区からの分区によって、栄区が誕生しました。

●栄区の略歴

時代	西暦(年号)	できごと
縄文	1 万年前	栄区(笠間・公田・田谷・長尾台・上郷町)に縄文の遺跡跡。
弥生	紀元前 300	各地に集落が形成される。 (笠間・公田・田谷・小菅ヶ谷・飯島町など)
古墳	7 世紀ごろ～	いたち川の流域に横穴古墳群と製鉄の遺跡(上郷深田遺跡)
奈良	710～	上郷猿田遺跡に奈良朝期の住居あと。
鎌倉	1197(建久 8 年)	源頼朝、證菩提寺をたてる。
室町	1353(正平 8・文和 2 年)	持阿上人が法案寺(笠間町)をひらく。
	1542(天文 11 年)	鎌倉郡で、北条氏康の検地がおこなわれる。
江戸	1627(寛永 4 年)	上総国生実藩の森川氏が笠間を領有。
	1668(寛文 8 年)	鍛冶ヶ谷八幡宮の阿弥陀庚申塔がつくられる。
	1781(天明元年)	本郷の大水害。笠間村田立地区の被害が大きかった。
近代	1873(明治 6 年)	「学制」が施行され、田谷学舎を皮切りに、この地域にも学校がつくられる。
	1889(明治 22 年)	市制、町村制施行により、鎌倉郡本郷村、豊田村、長尾村が誕生する。
	1889(明治 22 年)	大船駅が新設され、横須賀線が開通する。
	1914(大正 3 年)	いたち川に昇龍橋がかかる。(市内最古のもの)
	1915(大正 4 年)	村の編成替えにより、豊田及び長尾村が豊田村に、長尾村の小雀は大正村に編入。
	1923(大正 12 年)	関東大震災。豊田村、本郷村も大きな被害を受ける。
近代	1927(昭和 2 年)	横浜市区制施行。鶴見・神奈川・中・保土ケ谷・磯子の 5 区が誕生。
	1939(昭和 14 年)	戸塚区、港北区が誕生。栄区あたりは戸塚区となる。
	1943(昭和 18 年)	現在の環状 4 号線、六浦～笠間十字路間が開通。
	1947(昭和 22 年)	戸塚区役所本郷地区事務所開設。後に本郷出張所となる。
	1952(昭和 27 年)	第一海軍燃料廠跡を駐留軍が接収、「大船 PX」を設置。
	1967(昭和 42 年)	米軍「大船 PX」を全面返還。元大橋 1 丁目の開発許可により、大規模住宅開発が本格化。
	1969(昭和 44 年)	笠間大橋が完成し、環状 4 号線が開通。
	1972(昭和 47 年)	飯島市民の森が横浜市内第 1 号として開園する。
	1973(昭和 48 年)	JR 根岸線が大船駅まで開通し、本郷台駅が開業する。
	1981(昭和 56 年)	金井公園が区内初のスポーツ公園として開園。
	1986(昭和 61 年)	戸塚区が分区し、栄区が誕生する。(11 月 3 日)
	1992(平成 4 年)	横浜市民ふれあいの里「上郷森の家」開設。
	1999(平成 11 年)	環状 3 号線が長沼まで開通。
	2006(平成 18 年)	大船駅笠間口開設。 鎌倉街道(横浜鎌倉線)全線完成。

出典：平成 27（2015）年　栄区郷土史ハンドブック

２　区の現状と課題

(1)　人口

＜現状＞

栄区の人口は、122,171 人（平成 27（2015）年国勢調査）で、18 区中では西区に次いで２番目に少ない数値です（平成 27（2015）年国勢調査　全市人口 3,724,844 人）。

平成 12（2000）年から総じて増加傾向にありましたが、122,171 人となり、平成 22（2010）年と比較すると微減しています。

平成 17（2005）年から平成 27（2015）年までの 10 年間の区内の人口増加率をみると、鉄道沿線や鉄道駅周辺で人口が増加している一方、開発住宅地の人口が軒並み減少しており、桂台地区、庄戸地区などの住宅地や市街化調整区域等、駅から離れた地域などで人口が減少しています。

また、平成 27（2015）年の高齢化率は 29.2%（市平均 23.3%）で、横浜市内高齢化率１位となっています（平成 27（2015）年国勢調査）。町丁目毎の高齢化率をみると、北部の本郷台地区、小山台地区や南部の桂台、東部の庄戸地区では 40%と高い傾向にあるほか、市街化調整区域を含む地域では 30%以上のところもあります。

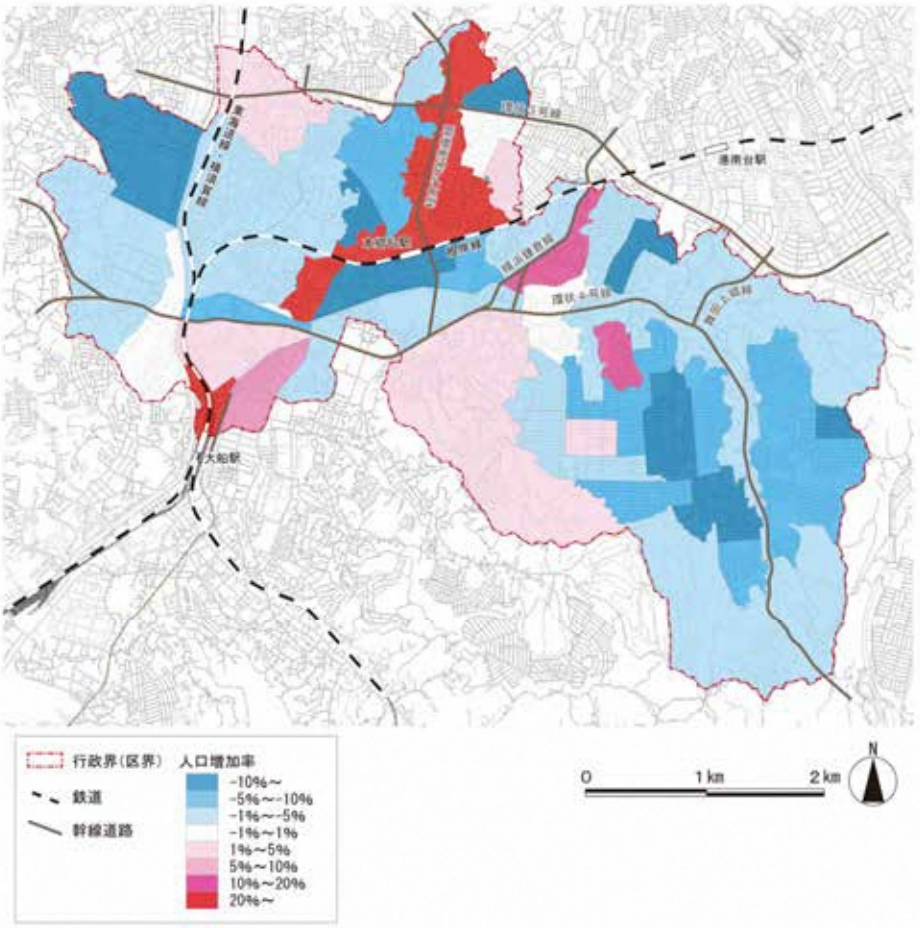
しかしながら、要介護認定率は 15.3%で、市平均の 17.5%よりも低い数値となっています。

高齢化率が 50%を超えるようなところにおいても、要介護認定率は 10%前後と低い特徴があります。

●栄区と横浜市の人口推移と将来人口推計

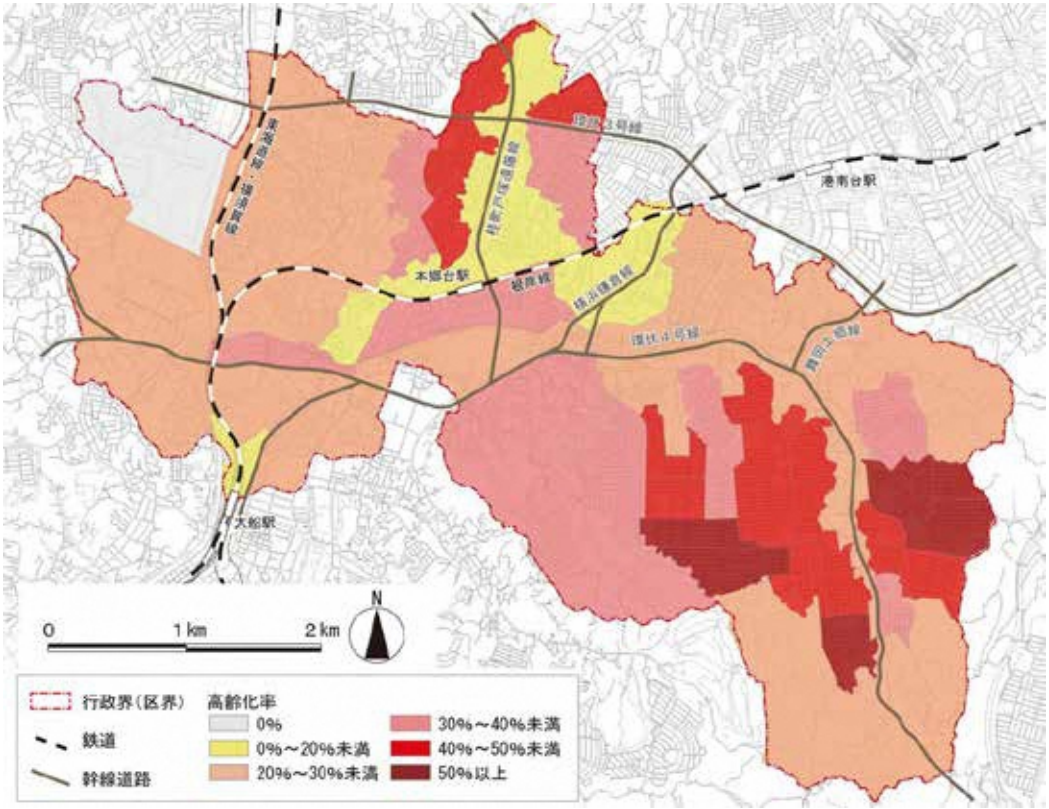
出典：国勢調査（総務省）及び 平成 29（2017）年横浜市将来人口推計（横浜市政策局）

●人口増加率



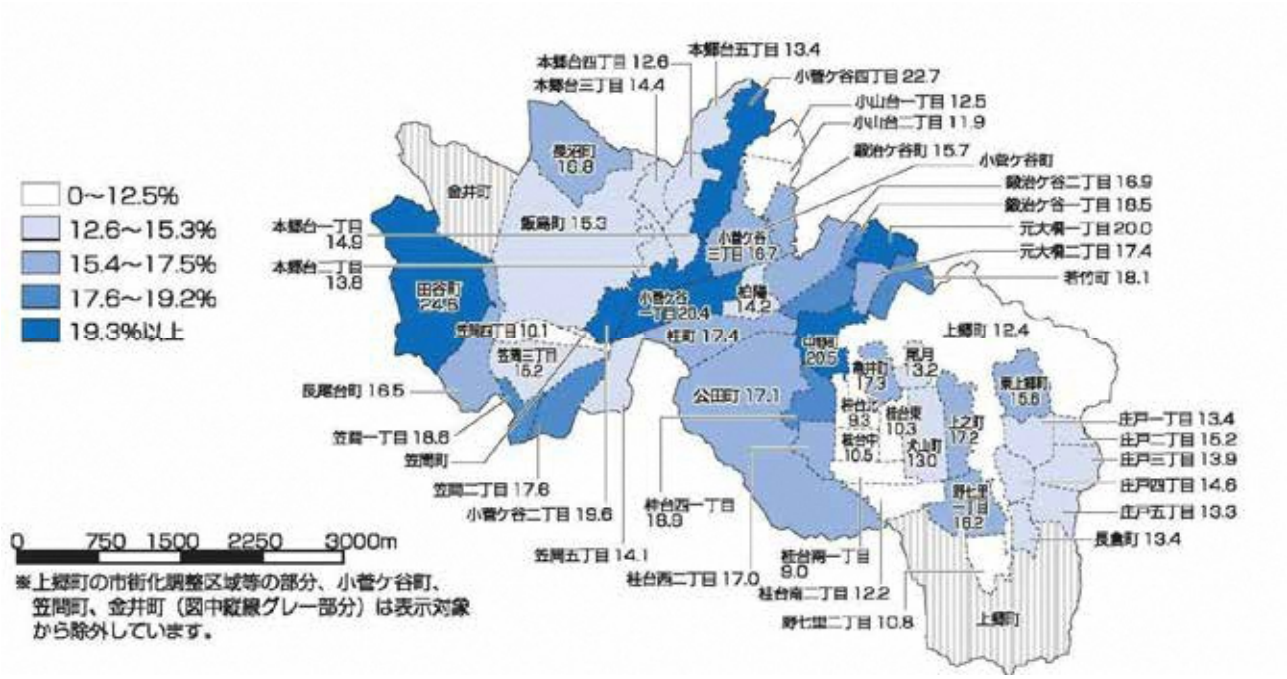
出典：平成 27（2015）年　国勢調査（総務省）

●高齢化率



出典：平成 27（2015）年　国勢調査（総務省）

●要介護認定率



出典：平成 30（2018）年　横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた栄区行動指針

＜課題＞

今後も栄区の人口は減少傾向にあると予測され、また高齢化率も高い水準で推移し続けると見込まれている中で、持続可能なまちづくり、幅広い世代が住み続けたいと思える魅力あるまちづくりが求められています。

(2)　土地利用

＜現状＞

栄区では、平成 30（2018）年１月１日現在、総面積約 18.5 ㎢のうち市街化区域が 13.3 ㎢、市街化調整区域が 5.3 ㎢となっており、市街化区域のうち 88.7%を住居系用途地域が占め、大半は戸建て住宅地となっています。用途地域の割合を見ると、工業地域の割合は 5.9%と市平均の 3.9%よりも割合が高くなっています。（出典：平成 30（2018）年　第 98 回横浜市統計書）

丘陵部の開発住宅地においては、建築協定や地区計画等により、住環境の保全策が講じられている地区も多くあります。

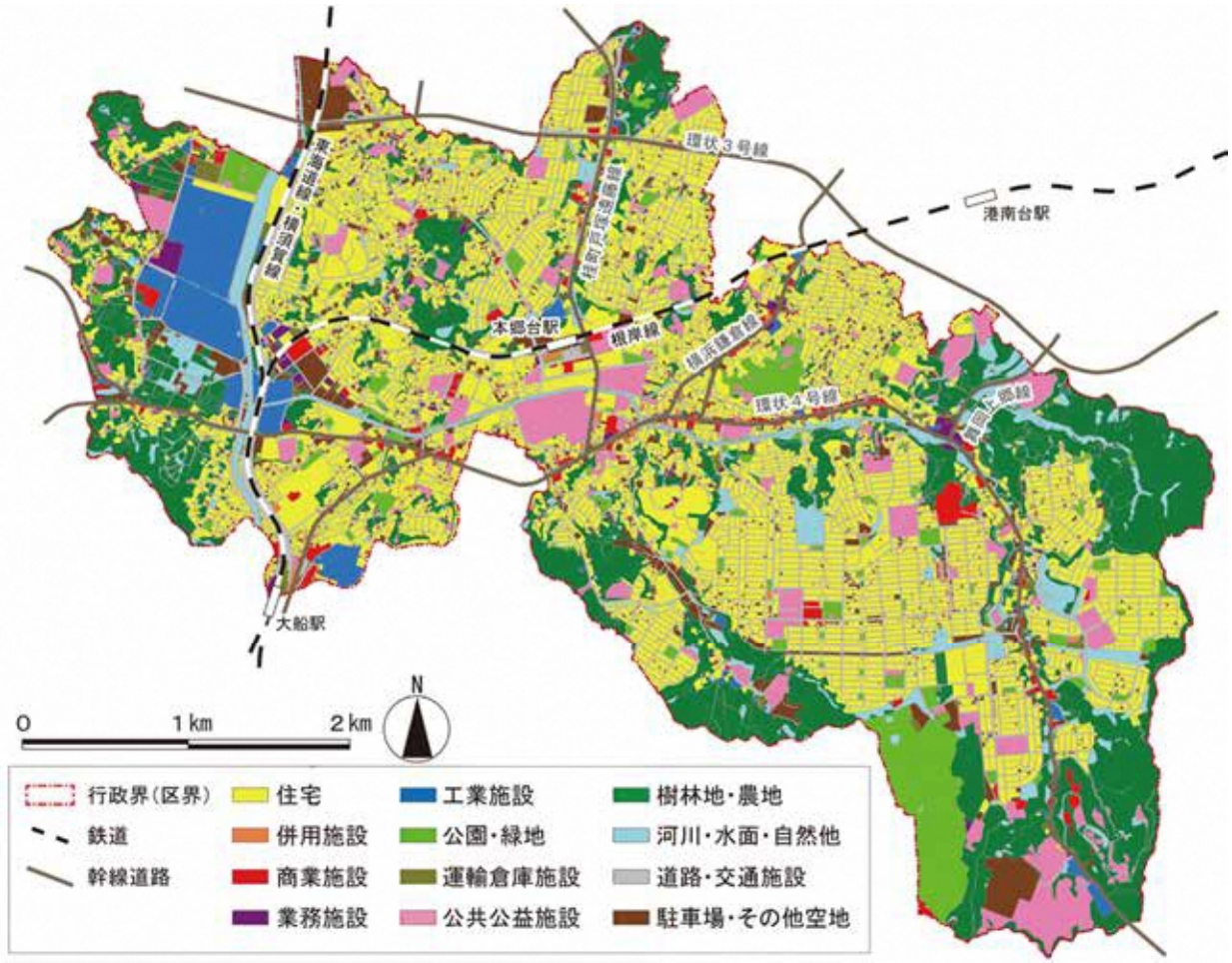
低地部は、狭い区画と細い街路の入り組んだ木造住宅が密集している地域や、幹線道路沿いに商住が混在した地域などによって市街地が形成されています。

区西部の田谷町・金井町周辺、区南部の公田町周辺には、まとまった農地や工業施設があります。柏尾川沿いの工業地域の一部は「工業集積地域」の「内陸南部」と位置付けられています。

都市計画道路桂町戸塚遠藤線、横浜鎌倉線（鎌倉街道）、環状４号線（原宿六浦線）の沿道では、道路整備の進捗に伴い、商業施設や集合住宅が増加しています。

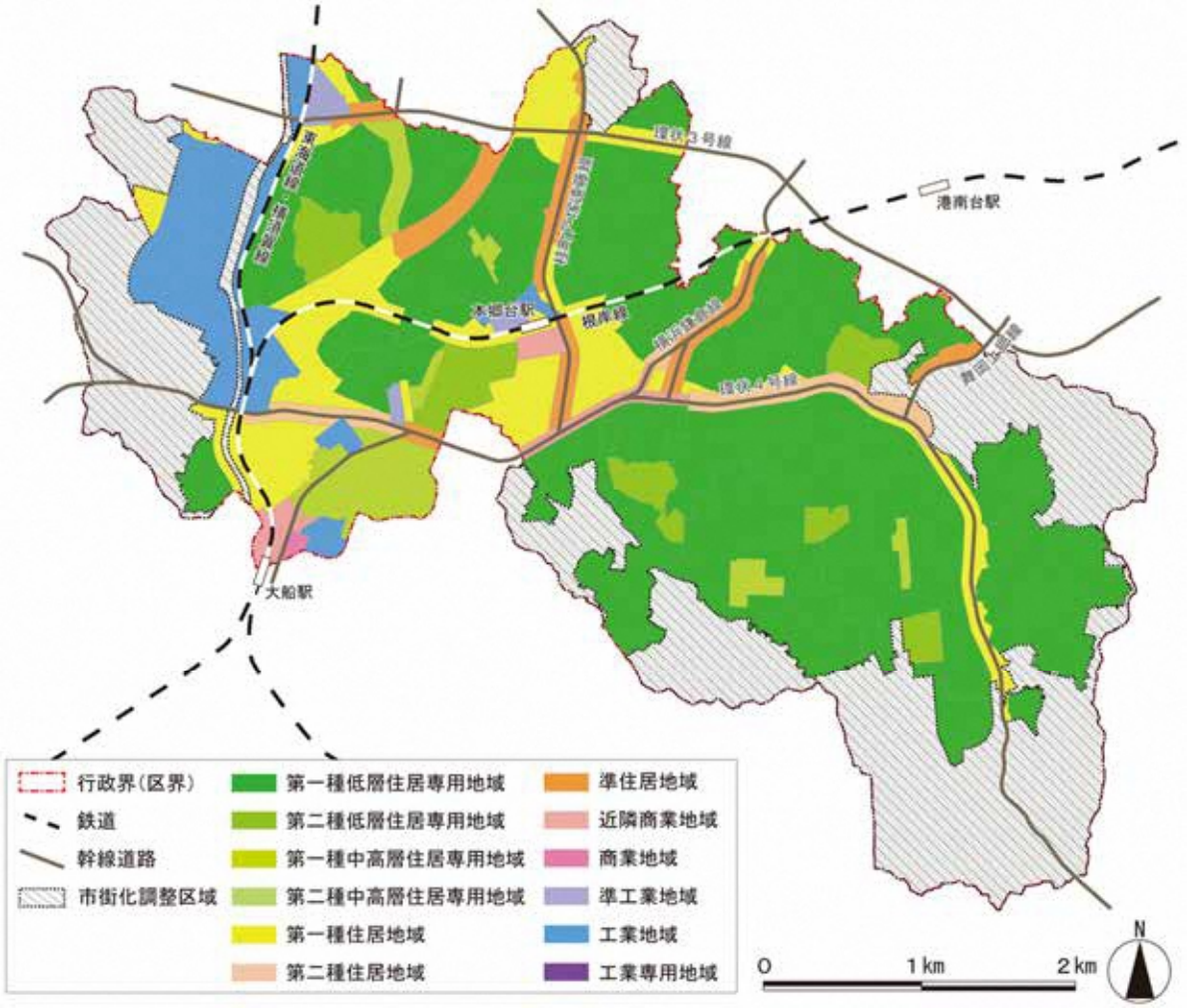
本郷台駅周辺は、様々な公共施設や商業施設等が集中し、区民生活の拠点となっています。

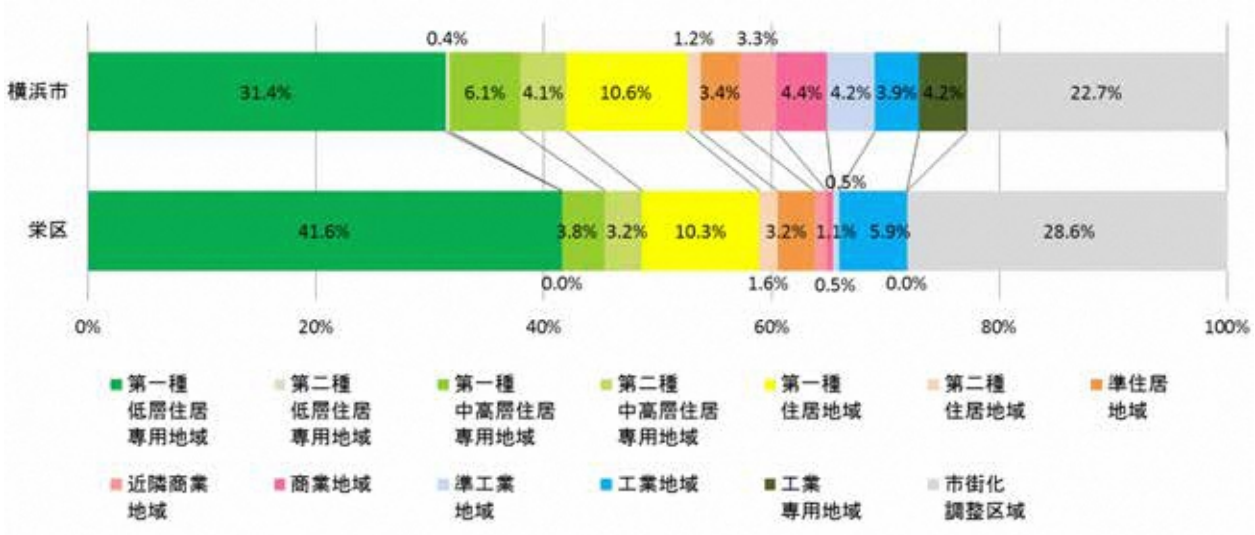
●土地利用現況図



出典：平成 25（2013）年　横浜市都市計画基礎調査

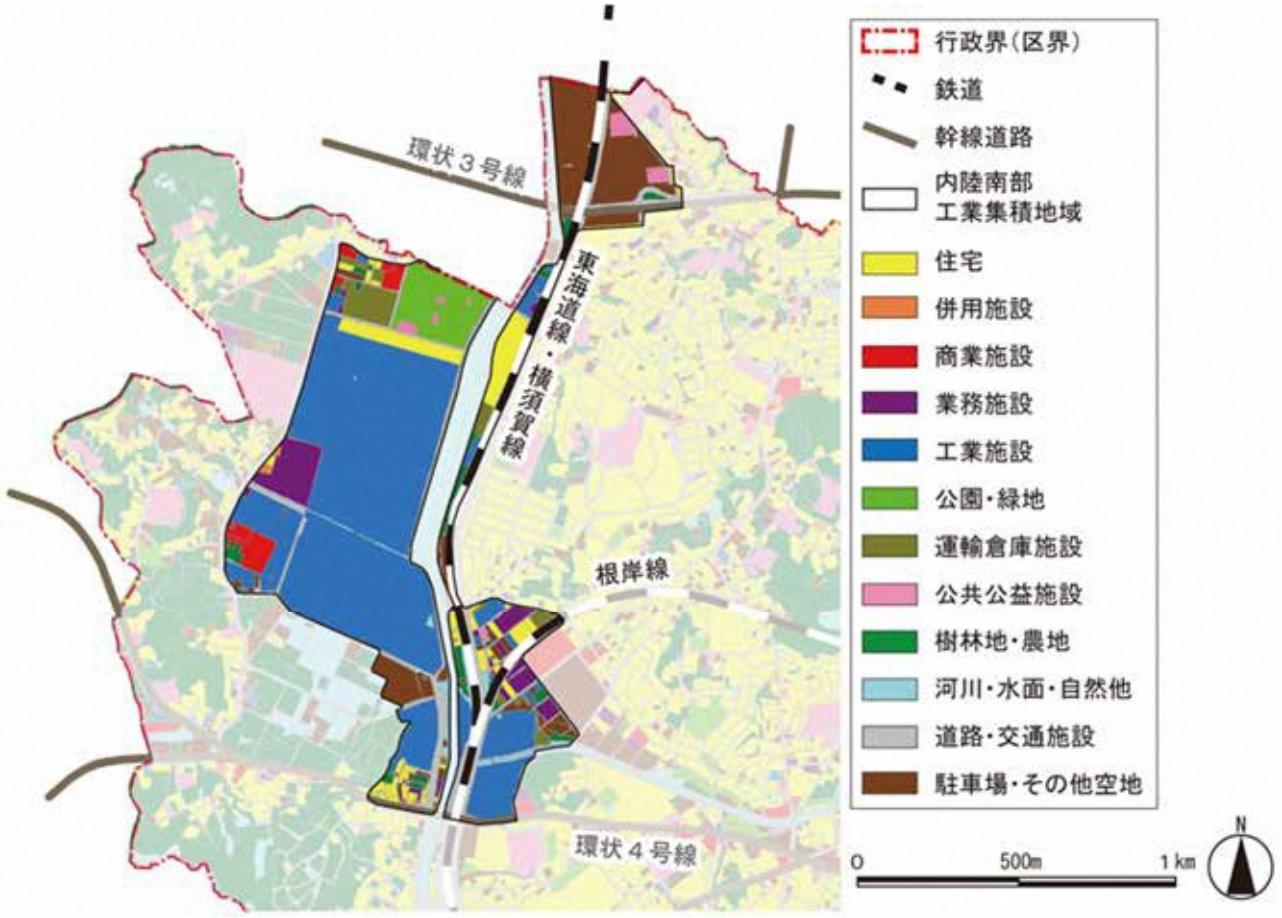
●用途地域等の現況と割合





出典：平成 30（2018）年　第 98 回横浜市統計書

●内陸南部工業集積地域　土地利用現況図



出典：平成 25（2013）年　横浜市都市計画基礎調査

＜課題＞

建築協定や地区計画等のある地区（P. 26）では、生活利便施設などの立地が規制されているものの、それらの機能の立地が求められることもあります。

木造住宅が密集しているエリアでは、狭い道路の拡幅や広場などオープンスペースの確保など、住環境の向上や防災に強いまちづくりが課題となっています。

農業を取り巻く状況の変化に合わせた都市農業の振興や区民との連携が課題となっています。

工業の都市機能と調和を図りつつ、工業集積の維持・高度化が求められています。

高速横浜環状南線・横浜湘南道路沿道のまちづくりについては、道路事業の進捗と併せて進める必要があり、工場用地、緑地、農地など、それぞれの土地の特性に応じて多角的に検討していくことが求められています。

将来、公共施設の統廃合や建替え等により使われなくなった施設の後利用を検討する必要があります。

本郷台駅周辺は、より求心力を高めるために、魅力ある区心部としてのあるべき姿が求められています。

大船駅周辺は、にぎわい・活力、高い利便性を生かすこと、快適な居住性を保つことが求められています。

(3)　水と緑

＜現状＞

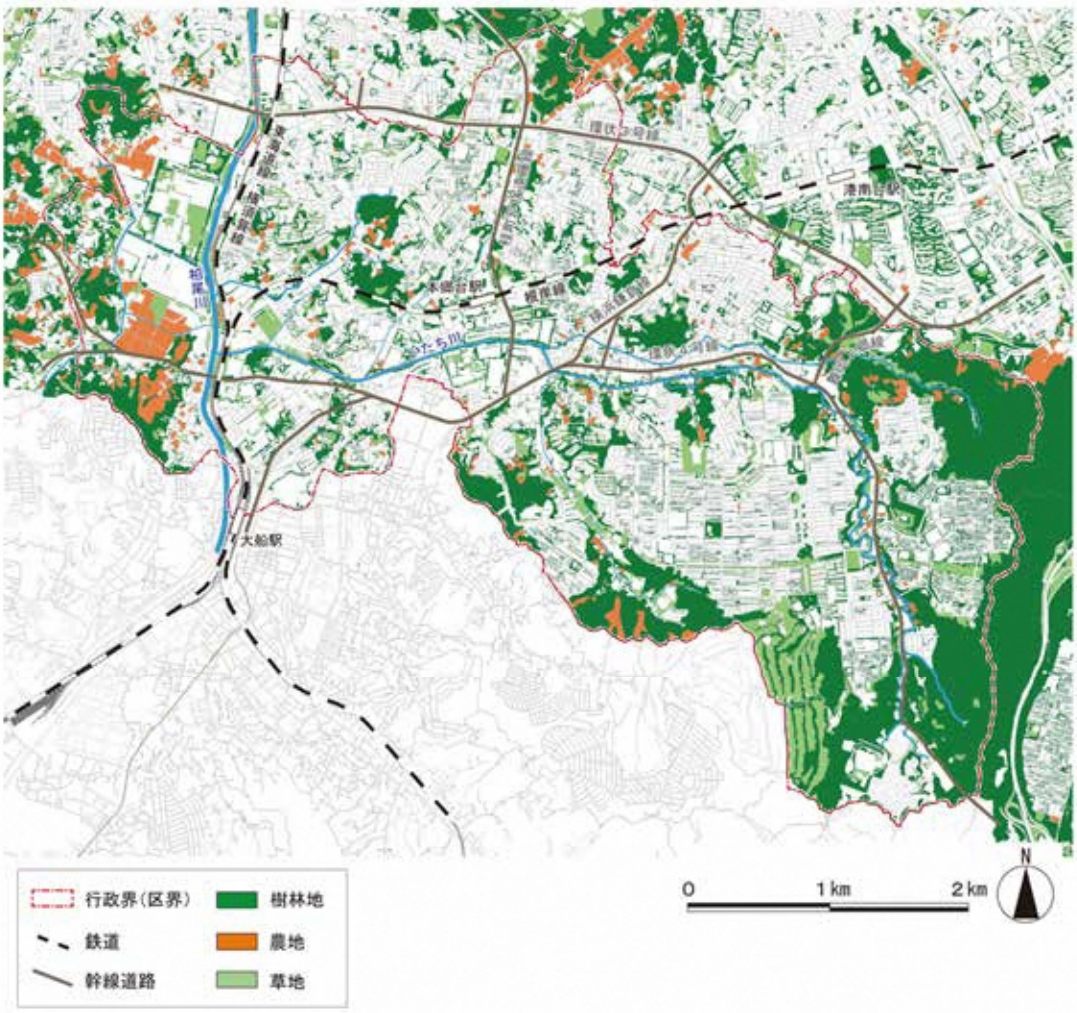
栄区の緑被率は 40.6%（全市 28.8%・平成 26（2014）年現在）と高く、全体的に緑豊かな環境となっています。なかでも区東部は、大規模で良好な自然が残り、横浜市の緑の 10 大拠点のひとつに数えられています。都市公園は 129 箇所、面積 69.8ha（平成 27（2015）年現在）が立地しています。緑地の大部分は民有地ですが、一部は、市民の森や特別緑地保全地区に指定されるなど、緑地保全施策がとられています。

区内の緑地は、昭和 30 年代後半から 50 年代前半にかけての大規模開発により急減し、その後は微減が続いています。

横浜市の平均気温は上昇傾向にあり、地球温暖化現象の影響に加えて、ヒートアイランド現象の影響も含まれると考えられます。栄区には大規模な緑地が存在することもあり、市内の中でも７月、８月の真夏日日数は比較的少なくなっています。

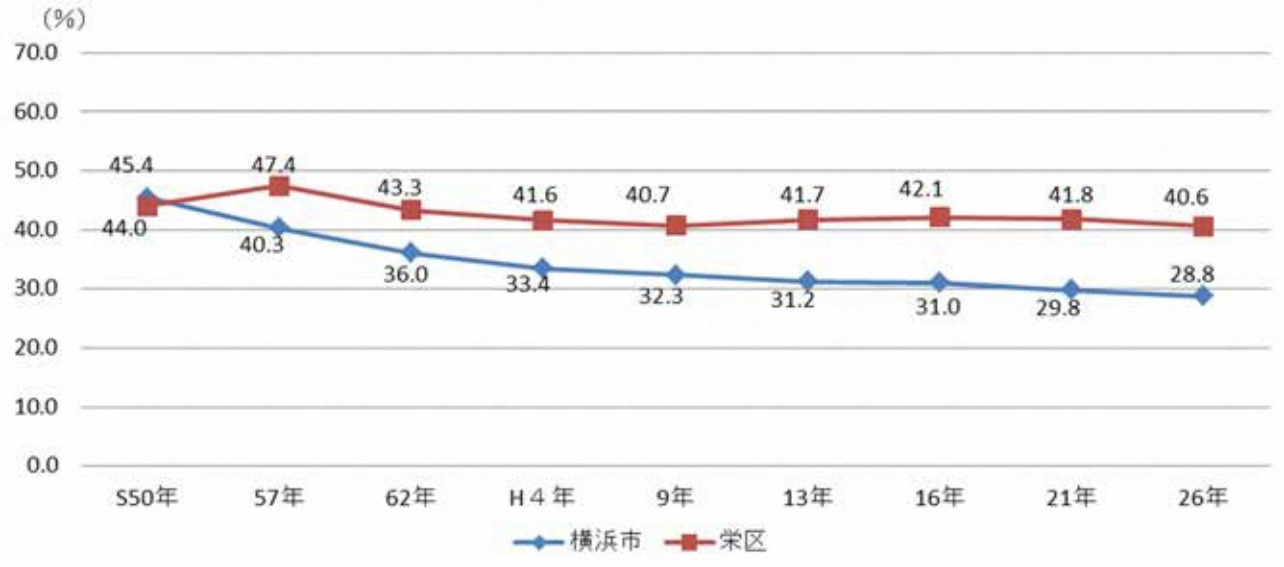
区の中央を東西に流れるいたち川は、ふるさとの川整備事業の対象に指定され、自然環境や生物多様性に配慮した河川改修が行われるとともに、プロムナードが整備されて、栄区のシンボルリバーとして区民の憩いの場となっています。時間雨量約 50mm に対応した改修は約 89%完了しており、現在、上流域である区東部にかけて事業が進められています。

●緑被分布図



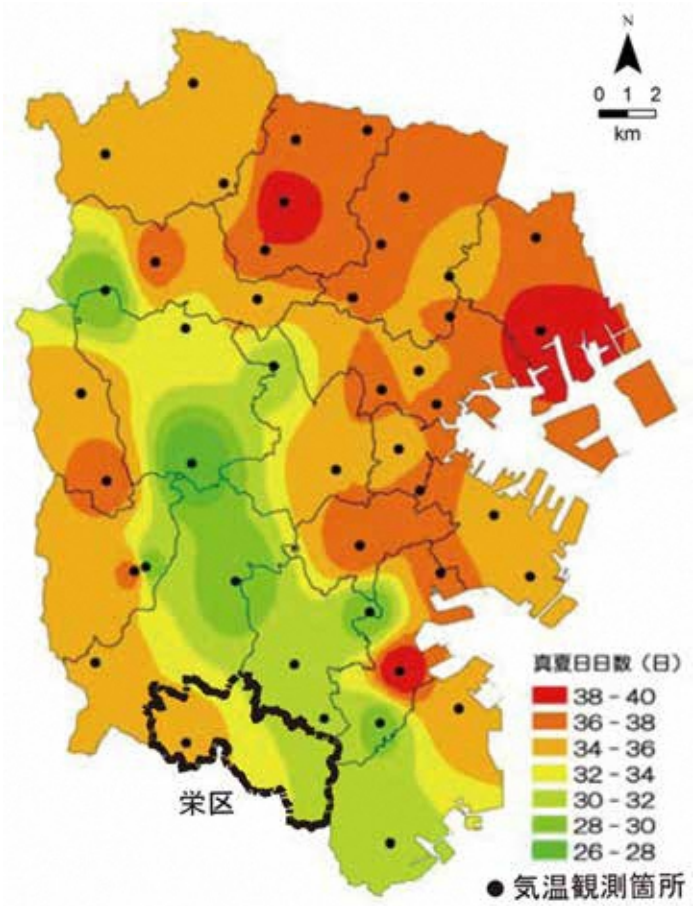
出典：平成 26（2014）年　横浜市環境創造局資料

●緑被率の推移



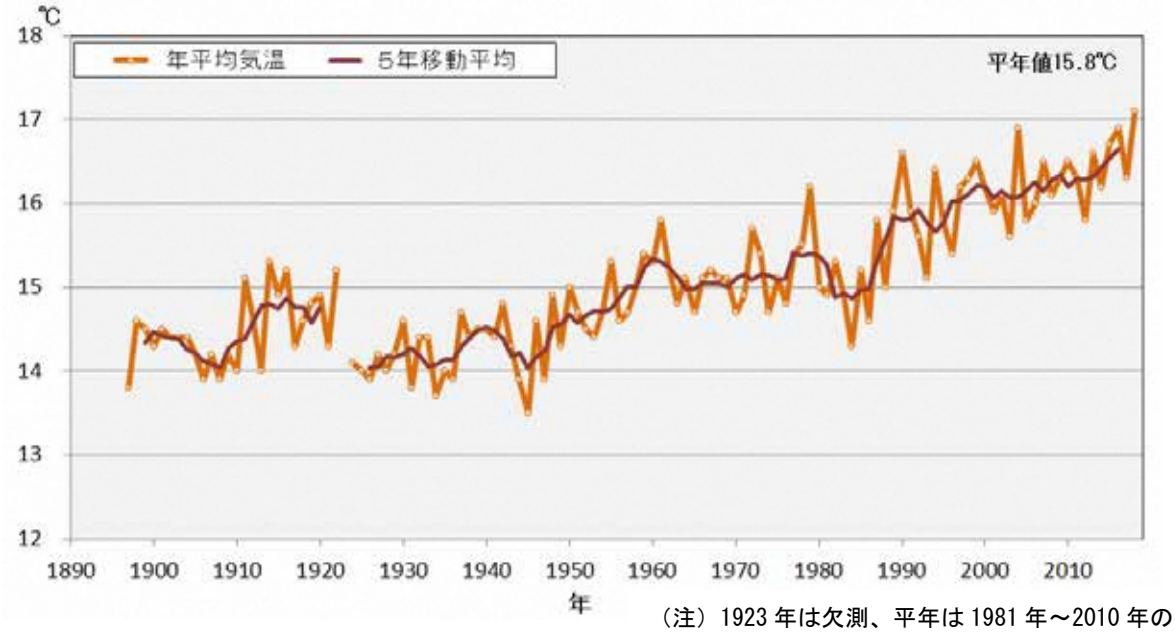
出典：横浜市統計書

●令和元年(2019)年７～８月の真夏日日数分布



出典：令和元年(2019)年　横浜市環境科学研究所記者発表資料

●横浜における年平均気温の経年変化



（注）1923 年は欠測、平年は 1981 年～2010 年の平均

出典：横浜地方気象台ホームページ

＜課題＞

恵まれた水と緑の環境を保全し続けること、また、それらの自然環境を活用することが求められています。

自然環境は、ヒートアイランド現象の緩和、景観の形成など多様な機能を持っていることからも保全し続けることが求められています。

また、重要な課題である地球温暖化への対応については、区民・事業者・行政がそれぞれの役割に応じて、温室効果ガスの排出を抑制する緩和策と、気候変動への影響に対応する適応策をともに進めて行く必要があります。

(4)　道路・交通

＜現状＞

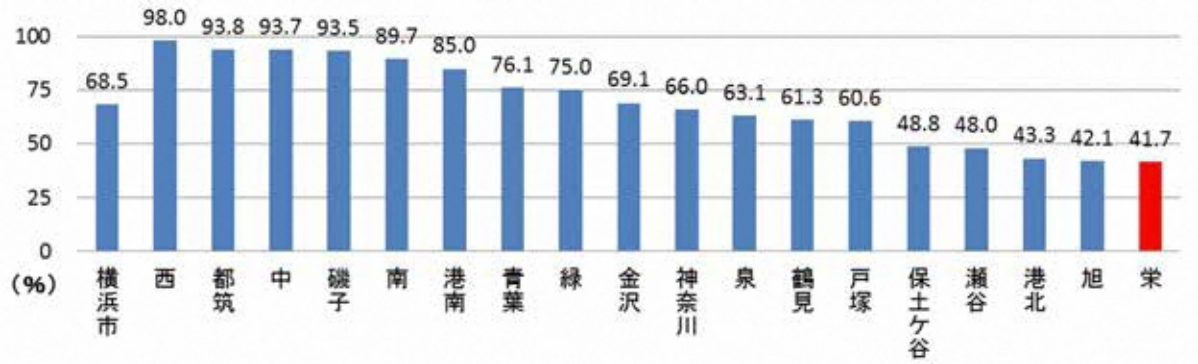
平成７（1995）年に高速横浜環状南線（自動車専用道路）と上郷公田線が、平成 12（2000）年に横浜湘南道路（自動車専用道路）が都市計画決定されています。「高速横浜環状南線」と「横浜湘南道路」、高速横浜環状南線の関連街路として「上郷公田線」、「横浜藤沢線」、「戸塚大船線」、「田谷線」等の整備が進められています。

環状４号線では神奈中車庫前交差点、笠間交差点で慢性的な交通渋滞が発生しています。

駅勢圏、バス圏のどちらにも含まれないエリアが部分的にあります。

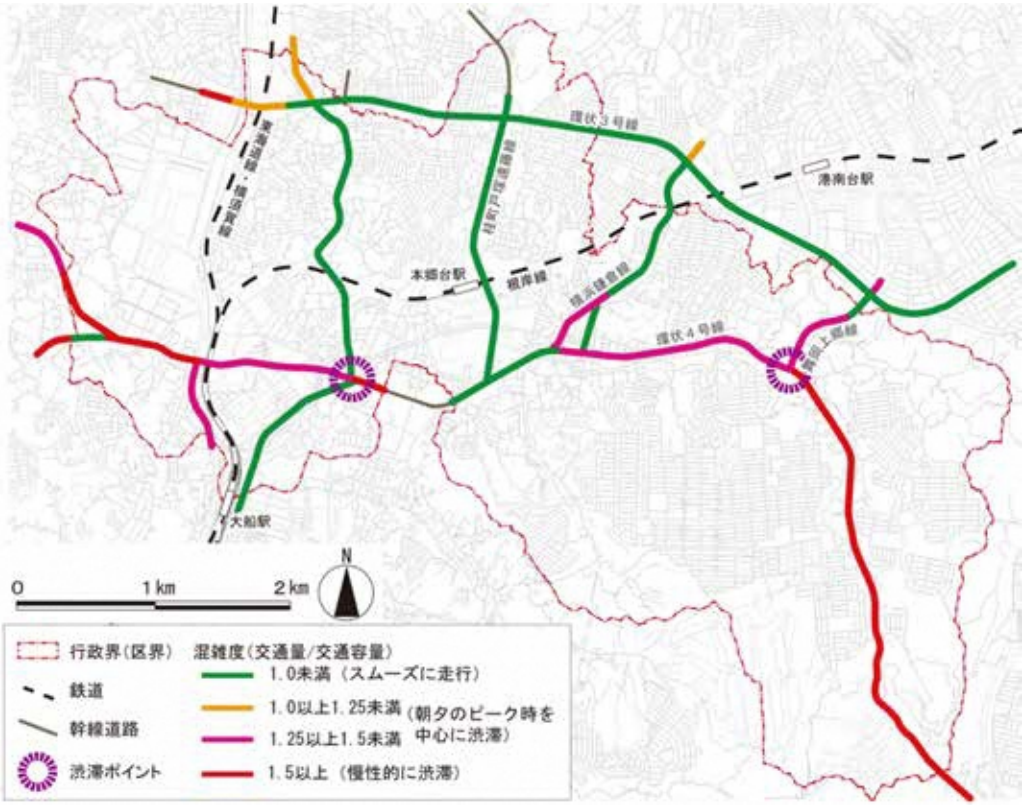
栄区の都市計画道路整備率は 41.7％（全市 68.5％・平成 31（2019）年 3 月 31 日現在）と 18 区の中で最も低い整備状況です。

●区別都市計画道路整備率



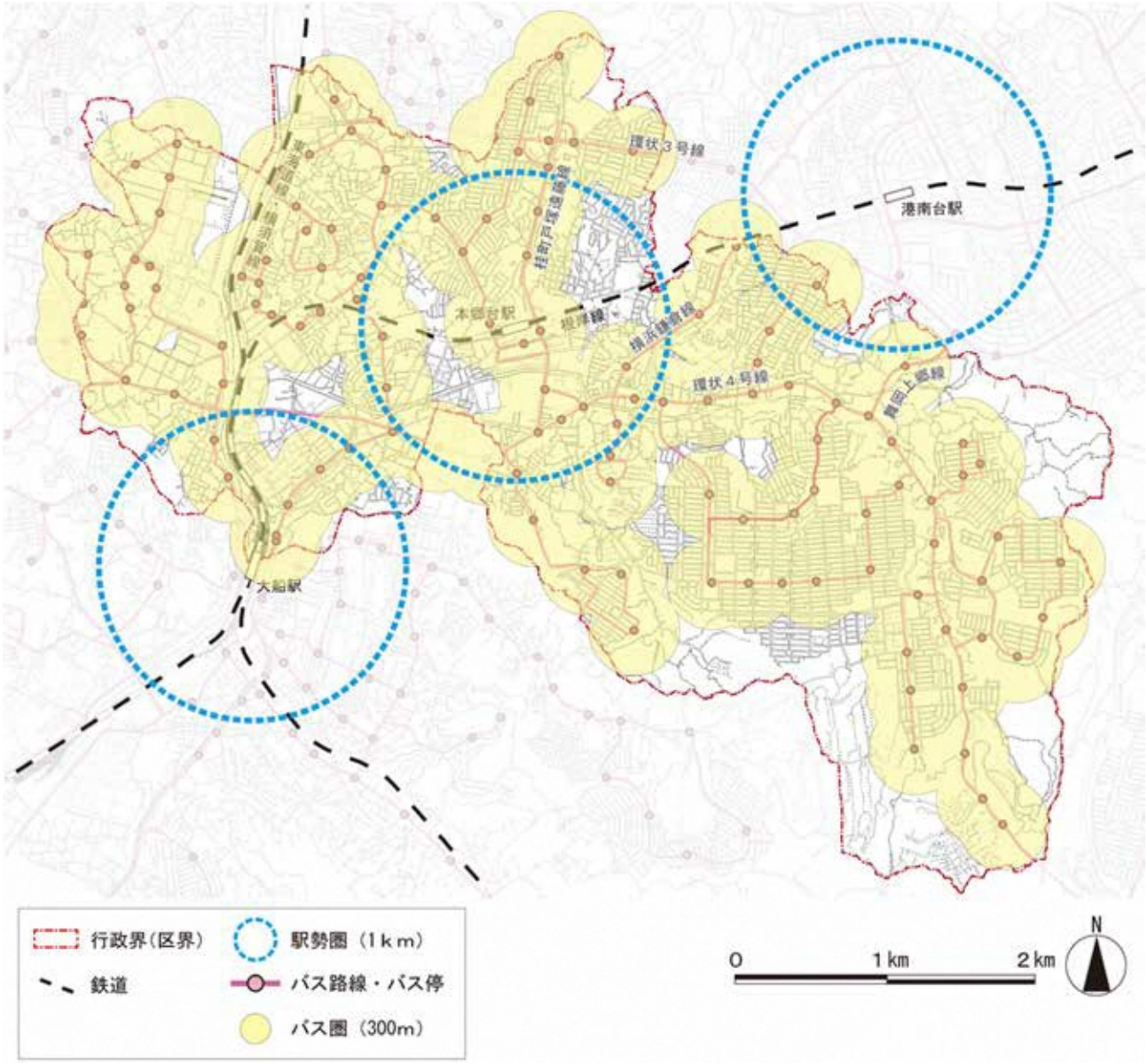
出典：平成 31（2019）年 3 月 31 日現在　横浜市道路局企画課

●混雑度



出典：平成 27（2015）年 道路交通センサス（国土交通省）

●バス圏及び駅勢圏



出典：国土数値情報（国土交通省）

＜課題＞

都市計画道路の整備による渋滞解消、安全な歩行者空間・自転車走行空間の確保等が求められています。

区内全体で高齢化が進行しており、特に鉄道駅やバス停から離れた地域では、より細やかで利便性の高い路線バスをはじめとした交通手段の確保や、交通利便性の改善が求められています。

(5)　地域コミュニティ・福祉

＜現状＞

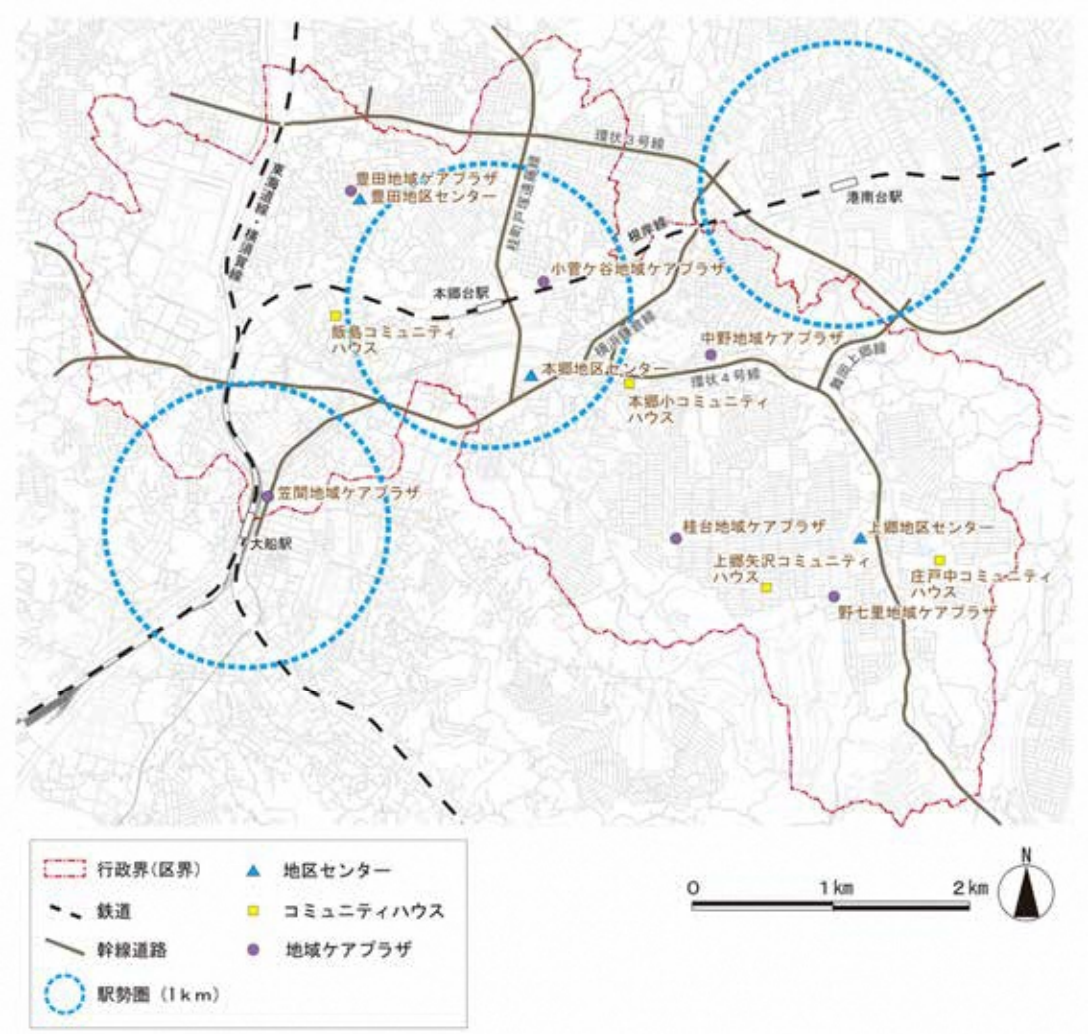
栄区では、地縁的団体である自治会・町内会等が地域コミュニティの核になっているとともに、それぞれの状況や関心に応じた様々なテーマごとに多くのグループが活動をしています。

各福祉施設を拠点として配食サービスが行われるなど福祉活動が盛んであると同時に、生涯学習活動やスポーツ・音楽などの体育・文化系の活動団体が盛んで、元気で活動的な高齢者が多いのが特徴となっています。

一方、区西部方面など一部の地域においては、こうした福祉活動や生涯学習活動を行う拠点が不足しているという意見もあります。

平成 17（2005）年には第１期栄区地域福祉保健計画が策定され、その後、平成 28(2016)年には第３期地域福祉保健計画が策定されています。

●地区センター、コミュニティハウス、地域ケアプラザの分布



出典：平成 30（2018）年４月版 栄区区民生活マップ

＜課題＞

既存施設の有効活用や公有地の複合的な利用、空家等の利活用などによる、交流活動の拠点づくりが求められています。

栄区地域福祉保健計画をまちづくりの観点からも進めていく必要があります。

【コラム１】セーフコミュニティ

～WHO（世界保健機関）推奨の国際認証「セーフコミュニティ」認証都市・さかえ～

１　セーフコミュニティとは（栄区導入の背景）

日常生活を送る中では、交通事故や犯罪、転倒・転落など、時には命の危険につながるような事故やけがが誰にでも起こりえます。

セーフコミュニティは、「致命的な事故やけがは、その原因を究明することで予防できる」という考えのもと、地域や関係機関、行政等がそれぞれ主体となり、地域ぐるみで取り組む予防活動のことをいいます。

栄区では、急激に進む高齢化に伴い増加する高齢者の救急搬送件数の抑制をはじめとする区内の事故・けがの予防や、安全・安心にかかる施策の統合的かつ効果的な推進、地域コミュニティのさらなる活性化を進めるため、セーフコミュニティ活動を導入しました。

セーフコミュニティには認証制度があり、栄区は平成 25（2013）年 10 月に世界で 319 番目、日本では７番目に認証を取得し、平成 30（2018）年に再認証を取得しました。

２　栄区のセーフコミュニティ活動

栄区では、①子どもの安全、②スポーツ時の安全、③交通安全、④児童虐待予防、⑤高齢者の安全、⑥災害安全、⑦自殺予防、⑧防犯の８つの分野別分科会と、データの収集・分析と取組の評価や提言を行う「傷害サーベイランス分科会」を設置し、取組を進めています。

≪分野別分科会の主な取組（平成 30（2018）年現在）≫

分科会名称	主な取組
こども安全対策分科会	養育者への啓発／子どもへの注意喚起（KYT※啓発）／地域住民による見守り
スポーツ安全対策分科会	けが予防講習会の実施／ウォーキングの推進
交通安全対策分科会	自転車ヘルメット着用啓発／スクールゾーン対策／高齢者安全教室
児童虐待予防対策分科会	さかえっ子の笑顔ひろげ隊／こんにちは赤ちゃん訪問／栄区虐待防止連絡会
高齢者安全対策分科会	転倒予防に資する取組／ヒートショック対策
災害安全対策分科会	実践的な地域防災拠点訓練の推進／災害時要援護者の取組拡大
自殺予防対策分科会	啓発活動の展開／ハートフルサポーターの育成／ハイリスク者への支援強化
防犯対策分科会	振り込め詐欺被害の抑制のための啓発

※KYT：危険予知トレーニングの略

セーフコミュニティの活動では、PDCA サイクル（Plan：計画⇒Do：実行⇒Check：評価⇒Action：改善）を使って取組の効果を確認しながら改善を図っており、ソフトの面からも安全・安心なまちづくりを支えています。

(6)　防災

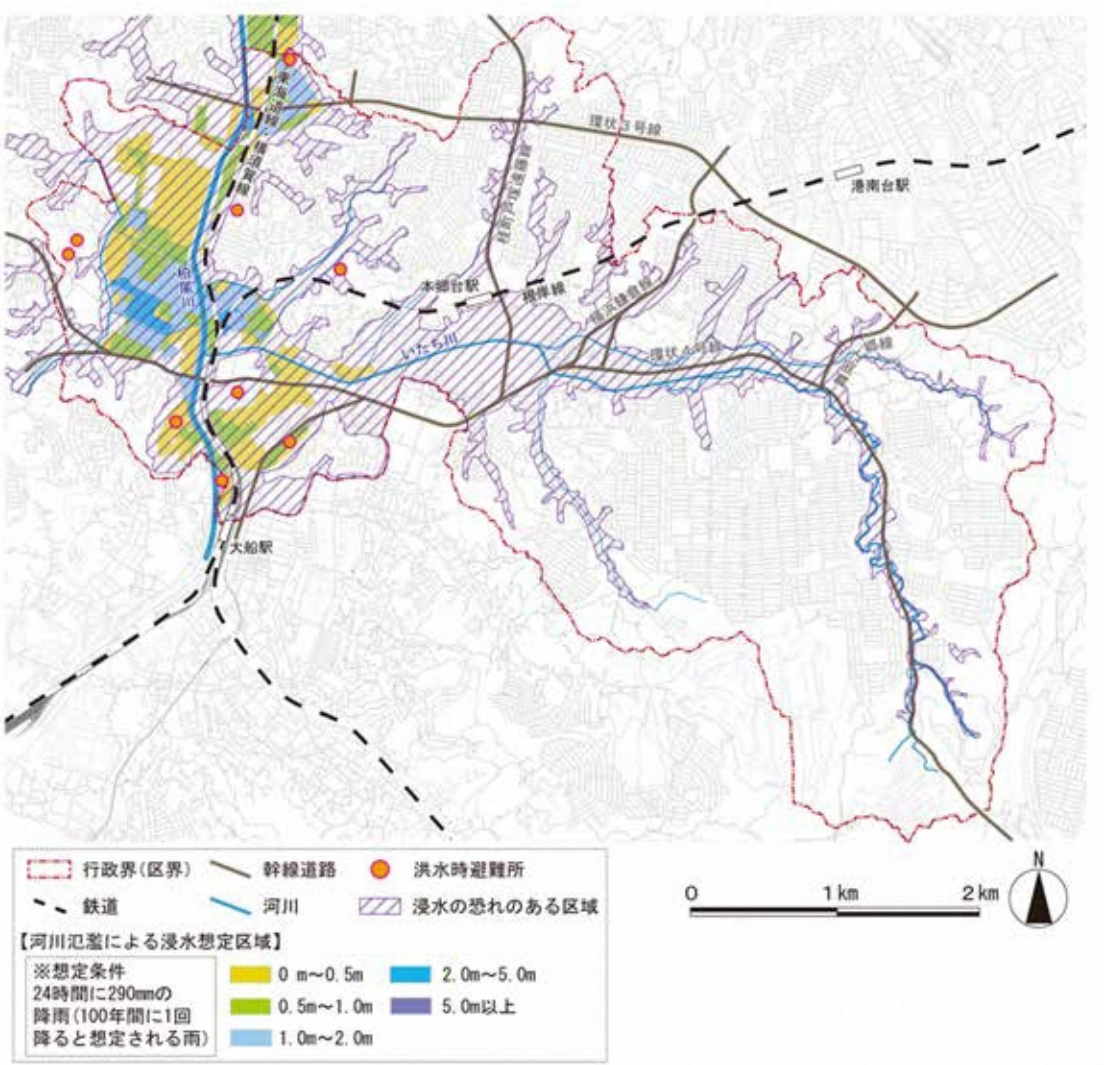
＜現状＞

いたち川、柏尾川流域一帯の標高が低い地域は、かつて、頻繁に洪水に悩まされていました。近年では、いたち川、柏尾川流域一帯の河川改修が進んでいます。

震災対策については、「横浜市地震マップ（平成 24（2012）年 10 月公表）」によると、元禄型関東地震が発生した場合、区のほぼ全域が震度６以上となることが予想されています。また、「神奈川県地震被害想定調査報告書」において、元禄型関東地震及び大正型関東地震が発生した場合は、区全域が震度６強、一部震度７になると予想されています。広域避難場所、地域防災拠点、緊急給水栓設置場所については、各地域に万遍なく分布しており、区全体でおおむね充足していると考えられます。

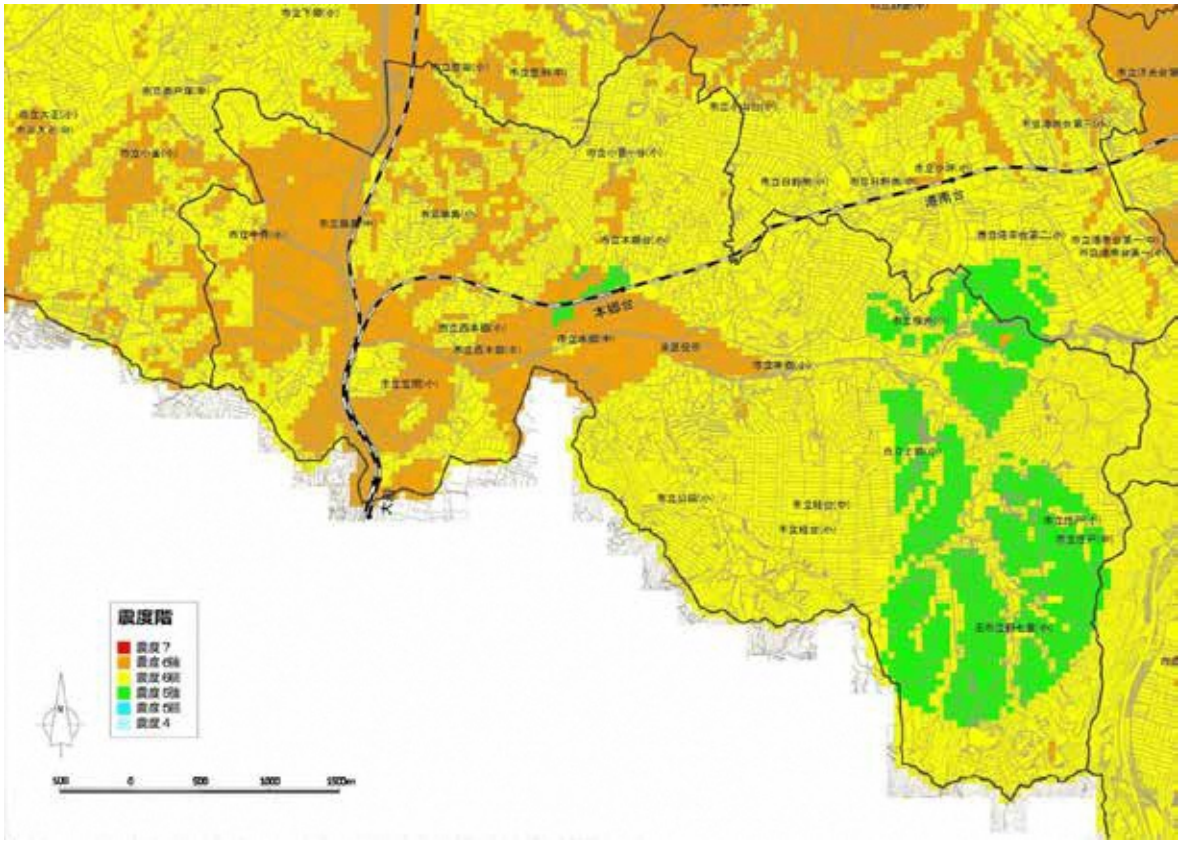
また、区の大半は、宅地造成が始まる前は丘陵地帯であったことから、現在も住宅地の周辺部に斜面緑地が残っています。これらの中には、土砂災害警戒区域があります。

●ハザードマップ（洪水）



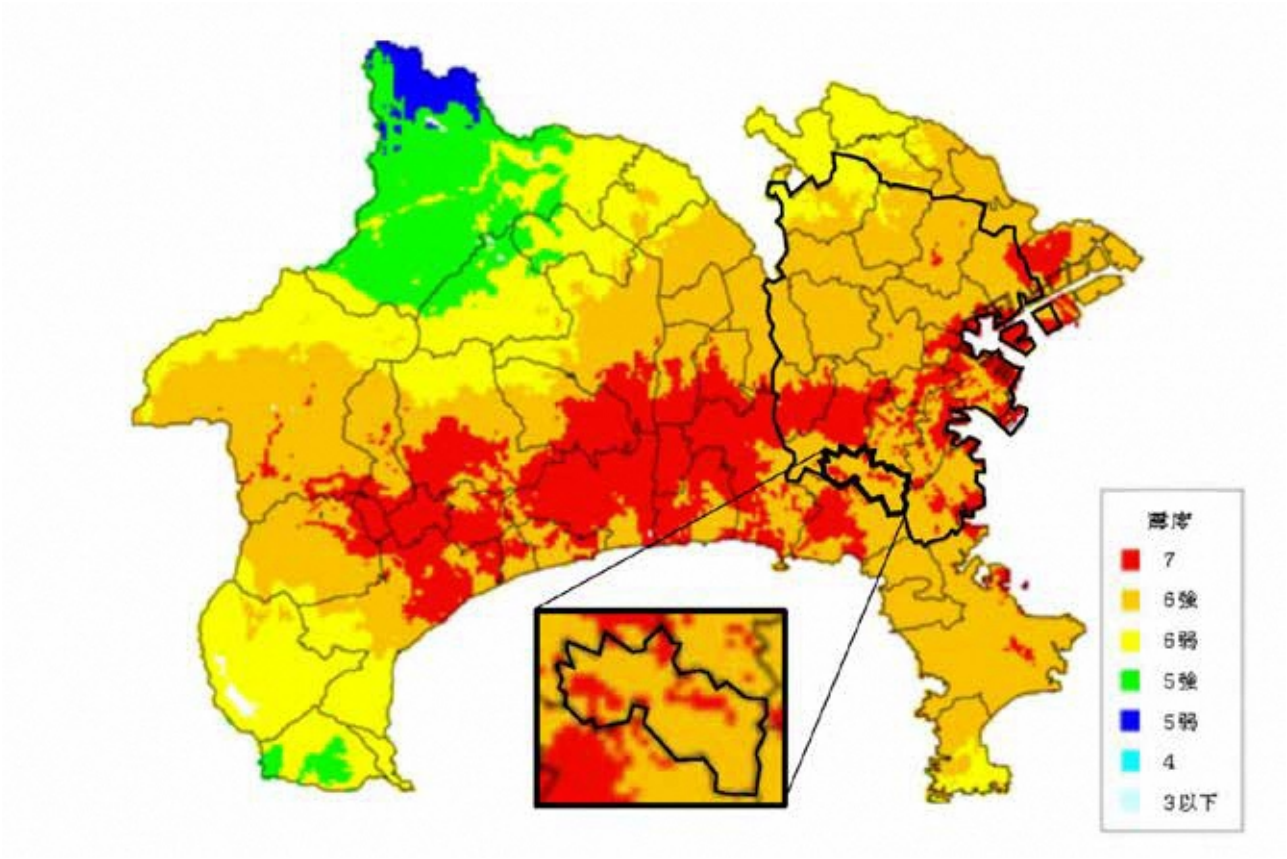
出典：平成 19（2007）年６月 洪水ハザードマップ（横浜市総務局）

●元禄型関東地震想定被害



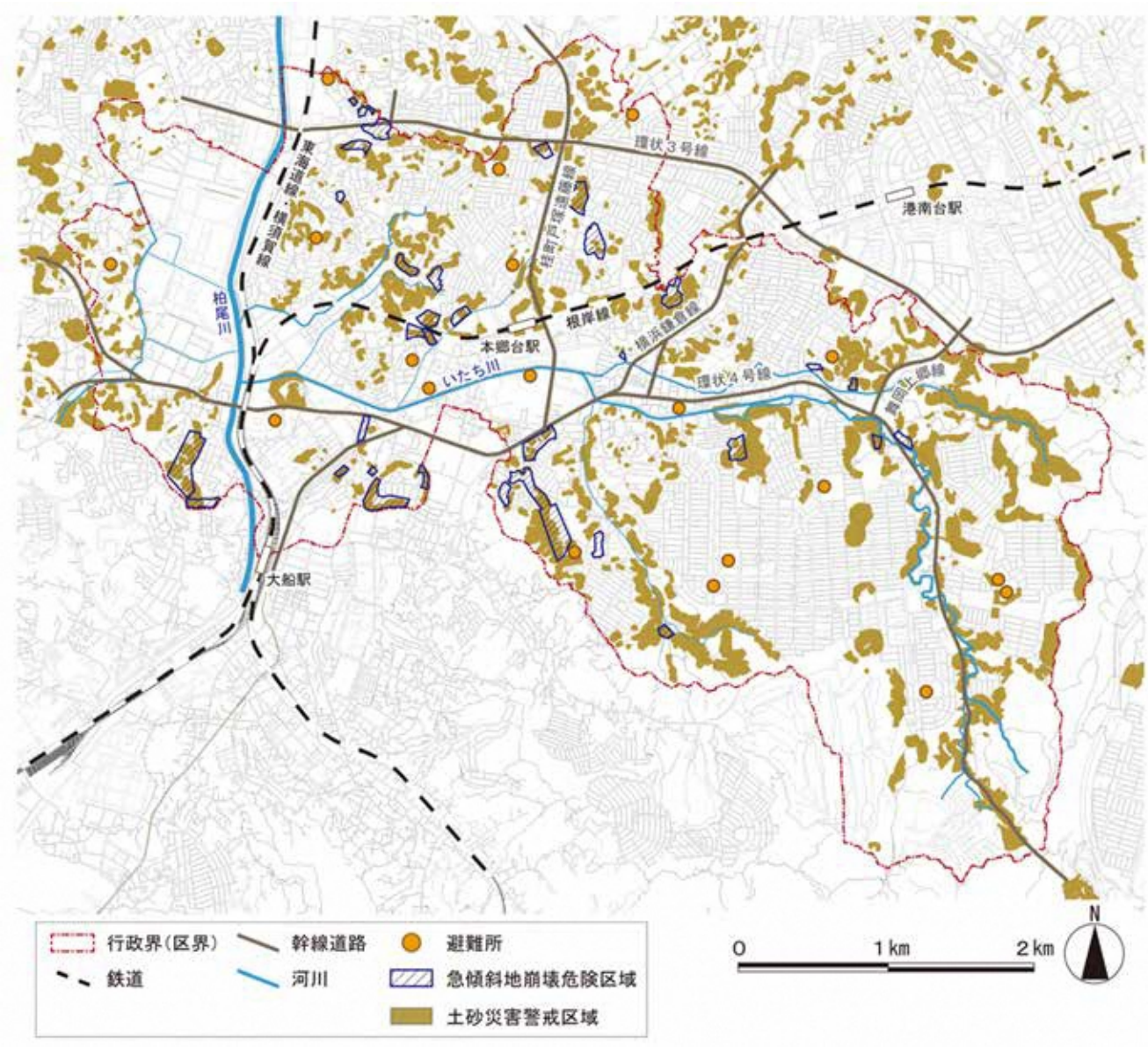
出典：平成 24（2012）年 地震マップ（横浜市総務局）

●大正型関東地震想定被害



出典：平成 30（2018）年 震度分布図：大正型関東地震（神奈川県くらし安全防災局）

●ハザードマップ（土砂災害）



出典：平成 30（2018）年　わいわい防災マップ（横浜市総務局）
平成 26（2014）年　土砂災害ハザードマップ（横浜市総務局）

＜課題＞

いたち川、柏尾川流域一帯については浸水被害が発生（平成 16（2004）年 10 月 9 日台風 22 号、平成 26（2014）年 10 月 6 日台風 18 号）しており、継続的な浸水対策が必要です。

また、土砂災害警戒区域等の崖地が崩壊した際に周辺へ被害が及ぶ恐れのある箇所では、急傾斜地崩壊対策事業や崖地の防災対策を促し、災害を予防する必要があります。

建物の耐震化や不燃化を早急に進めるとともに、防災訓練等を繰り返し実施していく必要があります。

災害時の医療救急活動や、生活物資の緊急輸送路となる幹線道路等の道路基盤整備が急務となっています。

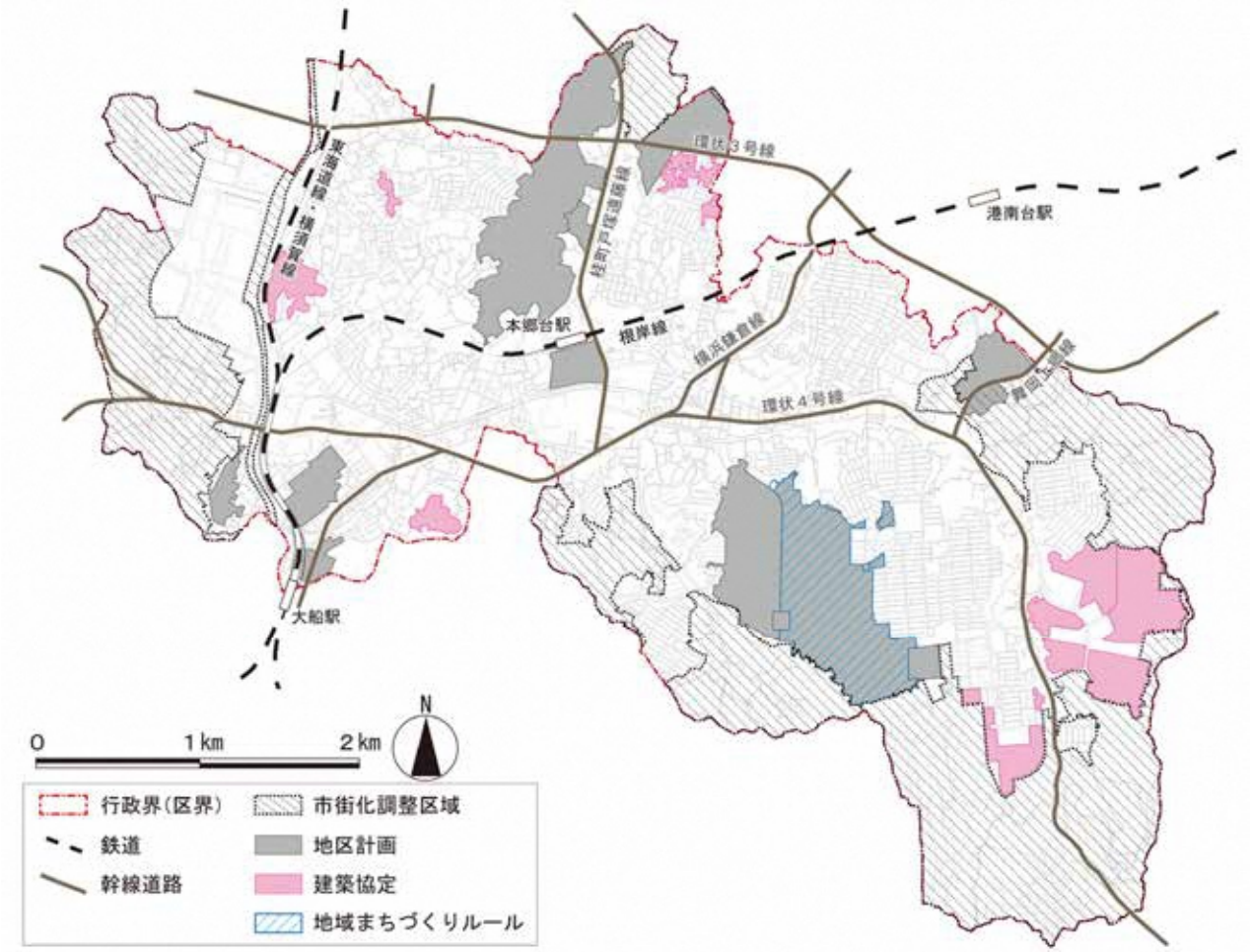
(7)　都市景観

＜現状＞

高速横浜環状南線をはじめとする都市計画道路の整備や開発事業により、周辺の土地利用が転換され、景観が変化する可能性があります。

丘陵部の開発住宅地においては、建築協定や地区計画等により、住環境の保全策が講じられている地区も多くあります。

●地区計画区域、建築協定区域



出典：横浜市都市計画情報システム

＜課題＞

公共施設（道路や並木、河川等）の整備・改修や土地の高度利用、土地利用転換の際には、周辺環境との調和を考慮した土地利用及び景観づくりの誘導を行う必要があります。

生垣等による緑化の推進や壁面後退など、地域の特性に合った各種制度の活用が必要となっています。

(8)　歴史・文化

＜現状＞

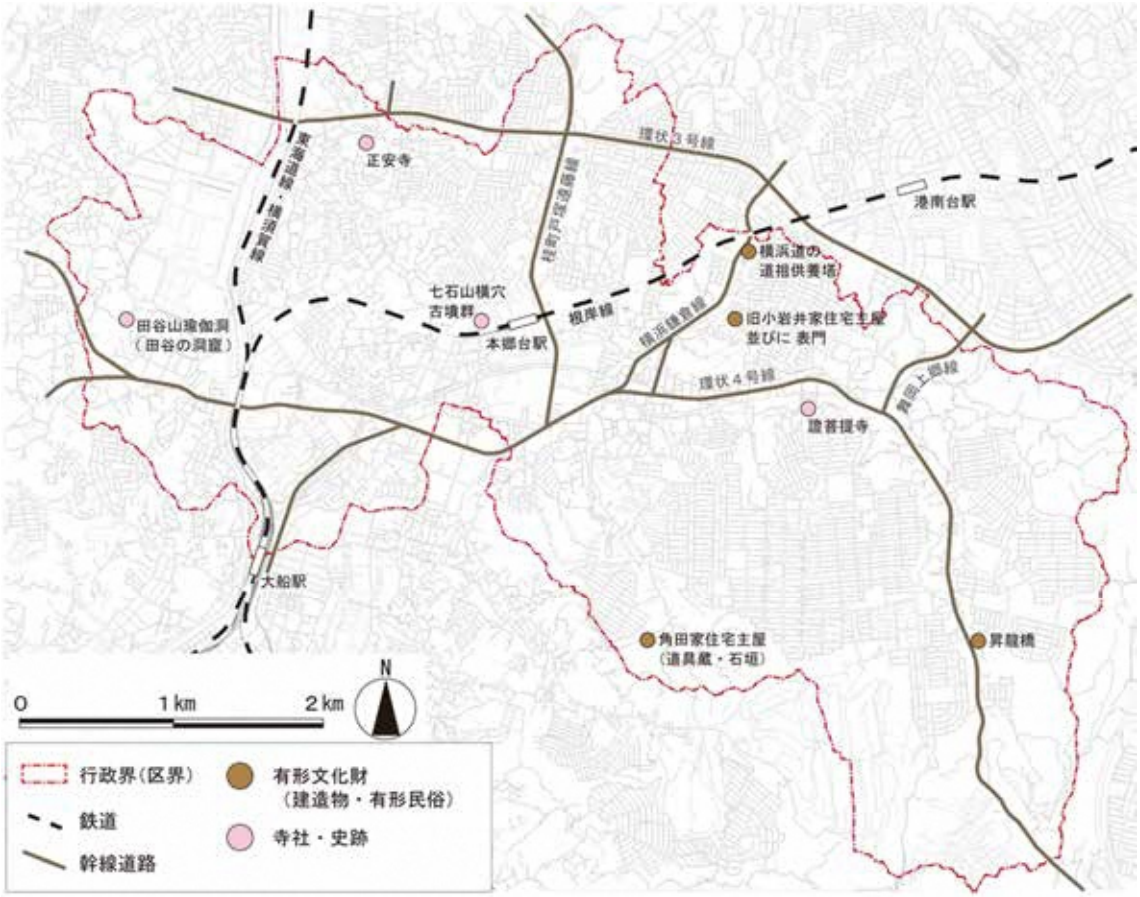
栄区には、古代の遺跡や中世からの歴史を持つ寺社が分布しています。

西部には田谷の洞窟、本郷台駅近隣には七石山横穴古墳群、東部にかけては本郷ふじやま公園内の市指定文化財の旧小岩井家住宅主屋並びに長屋門、上郷町にある證菩提寺（しょうぼだいじ）の国指定文化財の仏像などがあるほか、歴史資産として各地に寺社や石橋等の土木遺構や遺跡なども分布しています。年中行事についても、昔から地域で受け継がれているどんど焼き・さいと焼きが今も行われているほか、お囃子和太鼓を継承する活動や地域特性を生かした季節ごとの祭りなども行われています。

栄区と友好交流都市の長野県栄村、青森県南部町、山形県高畠町との交流も盛んに行われています。

このように、古くから伝わる歴史・文化などを楽しみながら伝承していく取組は、地域コミュニティを形成・維持するうえでも重要な要素であるといえます。

●市指定有形文化財、国指定重要文化財の分布



出典：平成 29（2017）年 国・神奈川県および横浜市指定・登録文化財目録（横浜市教育委員会事務局）
平成 30（2018）年 横浜市認定歴史的建造物一覧（横浜市都市整備局都市デザイン室）

＜課題＞

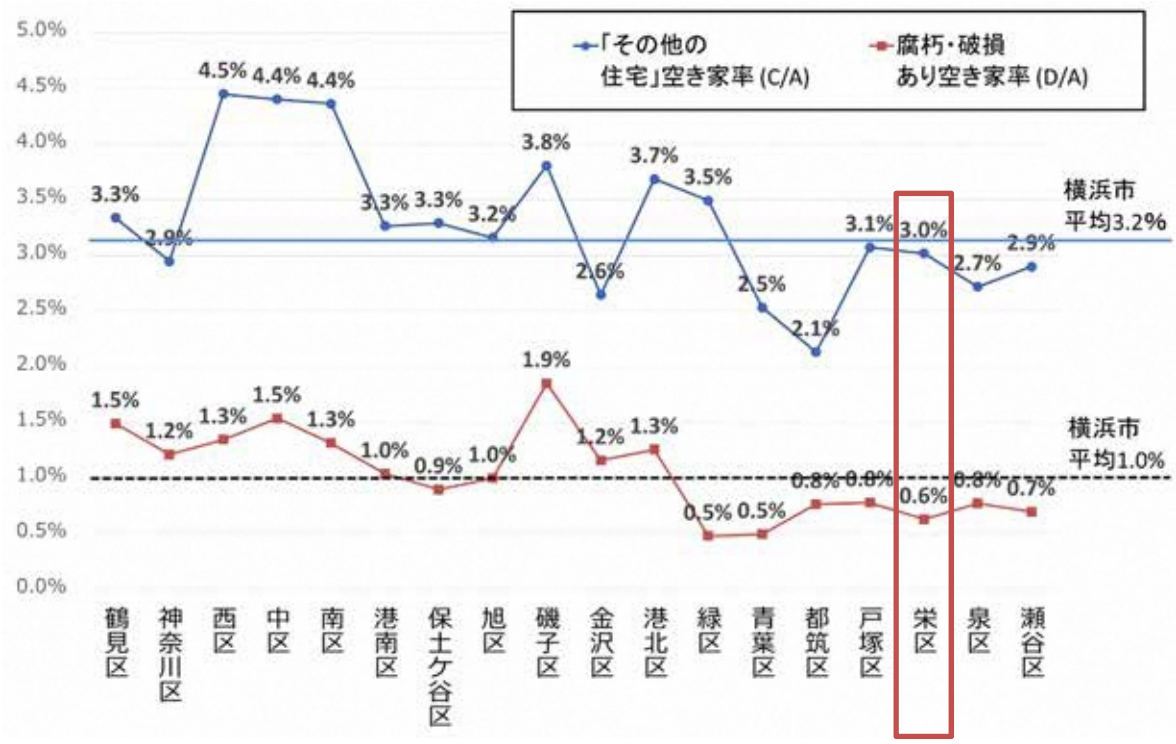
区民の多様な文化活動を推進するとともに、公共施設や文化施設、歴史資産（寺社や古民家等）について、市民活動、福祉活動団体や地域コミュニティによる連携を検討していく必要があります。

(9)　空家

＜現状＞

栄区における一戸建総数に占める空家の割合は、下図のとおり横浜市平均に比べて低い状況にありますが、今後、少子高齢化の進展に伴い、空家の割合・数の増加が見込まれます。

●区別の一戸建総数に占める空家（その他の住宅）の割合等（推計値）



※「その他の住宅」は、別荘等の二次的住宅や賃貸・売却用の住宅を除く住宅

	鶴見区	神奈川区	西区	中区	南区	港南区	保土ケ谷区	旭区	磯子区	金沢区	港北区	緑区	青葉区	都筑区	戸塚区	栄区	泉区	瀬谷区	横浜市
一戸建の住宅（A）	44,350	36,330	11,910	19,540	35,770	39,540	36,790	54,120	28,640	36,280	50,180	27,200	50,570	24,880	46,220	23,870	34,940	27,240	628,400
Aのうち空き家（B）	1,980	1,780	800	1,340	2,130	1,640	1,510	2,430	1,410	1,520	2,530	1,180	1,910	650	1,780	1,100	1,140	960	27,800
Bのうち「その他の住宅」（C）	1,480	1,070	530	860	1,560	1,290	1,210	1,710	1090	960	1,850	950	1,280	530	1,420	720	950	790	20,200
Cのうち「腐朽・破損あり」（D）	660	440	160	300	470	410	330	540	530	420	630	130	250	190	360	150	270	190	6,400
「その他の住宅」空き家率（C/A）	3.3%	2.9%	4.5%	4.4%	4.4%	3.3%	3.3%	3.2%	3.8%	2.6%	3.7%	3.5%	2.5%	2.1%	3.1%	3.0%	2.7%	2.9%	3.2%
腐朽・破損あり空き家率（D/A）	1.5%	1.2%	1.3%	1.5%	1.3%	1.0%	0.9%	1.0%	1.9%	1.2%	1.3%	0.5%	0.5%	0.8%	0.8%	0.6%	0.8%	0.7%	1.0%

出典：平成 30（2018）年 住宅・土地統計調査（総務省）

＜課題＞

今後見込まれる空家の割合・数の増加の抑制に向け、管理不全空家の初期指導通知（所有者等が、空家等の適切な管理を促進するための、情報の提供や助言などを行う）等の対応を継続していくほか、空家化の予防や流通・活用促進に向けた様々な取組を推進していく必要があります。

【コラム２】栄区区民意識調査

栄区民のみなさんが暮らしの中で感じる満足や不安、生活スタイル、地域のつながりなどの意識を把握し、今後の区政を進める基礎資料として活用させていただくため、２年に１回、調査を実施しています。

≪平成 29（2017）年度　栄区区民意識調査≫

１　調査概要

- 調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した栄区在住の 20 歳以上の男女 3, 000 人
- 調査期間：平成 29（2017）年 11 月 22 日～12 月 11 日
- 調査手法：郵送配布、郵送回収
- 設問数：27 問
- 回収数：1,393 件　（回収率 46.4%）

２　結果概要

⑴　定住意向

- 現在の居住地域に「住み続けたい」：79.9%

⑵　定住のために必要なこと

- 「交通の便が良くなる」：62.8%
- 「スーパーや商店が増え、買い物が便利になる」：62.5%

⑶　生活環境への満足度（「満足」、「どちらかといえば満足」の合計）

- 「ごみの収集、リサイクル活動」：79.6%
- 「緑地と水辺環境」：74.5%
- 「公園」：68.6%
- 「ごみの不法投棄対策や街の美化」：66.5%
- 「病院や救急医療、保健・病気予防対策」65.4%

⑷　道路・交通について

- 「とても便利」、「やや便利」の合計：32.0%
- 「やや不便」、「不便」の合計：33.2%

⑸　安全なまちと感じるか

- 「感じる」：24.6%
- 「どちらかといえば感じる」61.0%